

	外国語学部国際英語学科
DP	<p>国際英語学科は、本学の立学の精神と、本学部人材養成目的「国際化の推進を理念とし、グローバル化が深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材</li> <li>2.アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解力を持った人材</li> <li>3.日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士(外国語学)の学位を授与します。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>①豊かな教養および幅広い視野を持って生きることができる。</li> <li>②英語を実践的に運用できる。</li> <li>③海外の事情に通じ、深く異文化を理解できる。</li> <li>④日本の立場や事情を積極的に情報発信できる。</li> <li>⑤対話と協働により、主体的に課題を発見し取り組むことができる。</li> </ol>
CP	<p>国際英語学科は、その教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門、専門教育部門の2部門で体系的に構成された、次のような教育課程を編成し、実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教養教育部門は、基軸科目、発展科目(人間を考える、社会に生きる、自然と生きる)、情報教育科目、体育科目、キャリア教育科目で構成され、豊かな教養および幅広い視野を備えた社会の担い手として生きる力を身につけるようにする。</li> <li>②専門教育課程は、外国語科目群、専門基礎科目群、専門基幹科目群、専門展開科目群に配置された以下の科目を中心に、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく備え、グローバル化社会で活躍するために必要な英語力を身につけるための科目</li> <li>・グローバル化社会を多面的に理解する力を養うための第二外国語科目</li> <li>・言語の仕組みやその背景にある文化、思考法などについて幅広い知識の修得や理解を深めるための科目</li> <li>・アジアをはじめとする海外の事情、異文化、国際社会への理解や関心を深めるための科目</li> <li>・日本の歴史、文化、社会などを世界に説明し、情報発信できる力を養うための科目</li> <li>・コミュニケーション力を育成するための科目</li> </ul> </li> <li>③専門教育課程は、ゼミナール科目群に配置された以下の科目を中心に、能動的学修の要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話と協働により、自ら課題を見出し解決する実践力を養うための科目</li> <li>・主体的な学習習慣、研究を深めることによる優れた洞察力および分析力を身につけるための科目</li> </ul> </li> <li>④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</li> </ol>
AP	<p>国際英語学科は、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①高校までの学習による基礎学力を身につけている。</li> <li>②コミュニケーションを通じて自ら進んで国際社会の課題に実践的に取り組みたいと思っている。</li> <li>③グローバル化時代において、英語を駆使して活躍したいと思っている。</li> <li>④世界に向けて日本のことを積極的に情報発信したいと思っている。</li> <li>⑤向上心やチャレンジ精神が旺盛で、高い志と強固な意思を持って生涯にわたり勉学に取り組む意欲がある。</li> </ol>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベル(外国語学部国際英語学科)では、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査、学生アンケート、外部英語能力検定試験等により評価する。科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>また、ゼミナールでは、卒業論文等の成果から、学修成果の達成状況を評価する。</p>